

科目区分	専門分野	科目名	日常生活援助技術 Ⅲ (食事・排泄)	対象学生	第1学年
		単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	学 期	第2学期
担当講師	坂井 典子 (臨床経験 28 年、教育経験 1 年)				
科目目標	食事と排泄の日常生活援助技術を習得する。				
授業計画	<p>第1回 食事・栄養の意義と基礎知識 (講義) 1. 食事・栄養の意義 2. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 3. 食事援助の基本 4. 栄養や食事における看護師の役割</p> <p>第2回 1. 健康障害と食生活 2. 食事摂取の介助 1) 目的・適応 2) 実施方法 (講義) 3) 実施前のアセスメントと介助方法の決定 4) 援助の実際と実施後の評価</p> <p>第3回 経口摂取できる患者の食事介助の実際 (演習) 1. 環境調整 2. 食器の位置や補助具・自助具の工夫 3. 食事姿勢の調整 4. 食事動作の工夫</p> <p>第4回 排泄の意義と基礎知識 (講義) 1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム (排尿・排便) 3. 排泄に影響する因子 4. 排泄のアセスメント</p> <p>第5・6回 自然排尿および自然排尿を促す援助 (講義) 1. 排泄に影響を及ぼす因子 2. 排泄障害がある患者の援助 3. 排尿障害のある患者の援助 1) 排尿障害とは 2) 排尿障害の種類 3) 具体的な援助 4. 排便困難のある患者の援助 1) 便秘 (1) 便秘の種類 (2) 具体的な援助 2) 下痢 (1) 下痢の種類 (2) 具体的な援助</p> <p>第7回 排泄の援助方法 (講義) 1. トイレにおける排泄援助 2. ポータブルトイレでの排泄援助 3. 床上排泄援助 1) 便器・尿器のあて方 2) おむつによる排泄援助</p> <p>第8回 床上での排泄援助の実際 (演習) 1. 尿器・便器のあて方 2. トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄 3. おむつ使用による排泄援助</p> <p>第9・10回 排尿障害時の援助 (講義) 1. 導尿 1) 一時的導尿 (1) 目的・適応 (2) 具体的な方法 (3) 禁忌 2) 持続的導尿 (1) 目的・適応 (2) 具体的な方法 (3) 禁忌 (4) カテーテル管理</p> <p>第11・12回 導尿の援助の実際 (演習) 1. 一時的導尿の援助 2. 持続的導尿の援助</p> <p>第13回 排便障害時の援助 (講義) 1. 浣腸 1) 目的・適応 2) 種類と作用 (グリセリン浣腸など) 3) 目的・根拠 4) 禁忌 2. 摘便 1) 目的・適応 2) 方法・根拠 3) 禁忌</p> <p>第14回 排便障害時の援助の実際 (演習) 1. 浣腸の方法 1) 浣腸液の温め方 2) 浣腸液の注入方法 2. 摘便の方法</p> <p>第15回 終了試験</p>				
評価方法	筆記試験、課題レポート、技術チェックあり				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社				
講師からのメッセージ	形態と機能、疾病・治療論、栄養学、既習の看護技術の学習内容を想定しながら授業を進める。看護技術は、DVD 視聴によりイメージ化を図る。学生間による患者模擬体験を通して、援助を受ける患者の心理を知り、援助に活かすことができるようにする。 国家試験出題基準を確認し学習すること。				